

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 通山 久仁子	職名 講師	学位 博士 (コミュニティ福祉学)
-----------	-------	-------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
障害者福祉、地域福祉	障害者家族、親当事者、主体形成、発達障害、地域福祉活動、NPO、持続可能性

研 究 課 題
発達障害のある人の親が行う、発達障害のある人や家族を支援する地域福祉活動に着目し、親としての当事者性(「親当事者」性)を基盤とした自発的な実践活動の生成・展開過程とその活動の意義、またこれらの活動を通じた「親当事者」への主体化過程とその意義について明らかにする。さらにこれらの活動の持続可能性に関わる課題について検討する。

担 当 授 業 科 目
<p>ヒューマンサービス基礎演習 (前期)</p> <p>相談援助演習Ⅰ (後期)</p> <p>相談援助演習Ⅱ (前期)</p> <p>相談援助演習Ⅲ (後期)</p> <p>相談援助演習Ⅳ (前期)</p> <p>相談援助演習Ⅴ (後期)</p> <p>相談援助実習指導Ⅰ (通年)</p> <p>相談援助実習指導Ⅱ (通年)</p> <p>福祉入門 (前期)</p> <p>就労支援サービス論 (後期)</p> <p>福祉経営論 (前期)</p> <p>生命倫理 (後期)</p> <p>社会福祉特講Ⅱ (集中)</p> <p>専門研究Ⅱ (通年)</p>

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 ヒューマンサービス基礎演習 】</p> <p>初年次の演習科目であるため、ゲーム性のあるグループワークをできるだけ取り入れ、仲間づくりを促進できるようにした。ワークの内容も学生の希望を取り入れ、企画するようにした。このグループワークの中で、自分の意見を述べる機会を多く設け、自己表現力が養えるよう努めた。また学生のふり返りの時間を必ず設定し、内省する力を養えるように努めた。</p>
<p>授業科目名【 相談援助演習Ⅰ 】</p> <p>グループワークを通して他者と意見を共有しながら、考察を深めていく機会をできるだけ設けるようにした。学生のふり返りの時間を必ず設定し、さらにその個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。また学生自身が設定した問題意識に基づいてプレゼンテーションを行う機会を設けた。福祉的課題・問題の理解については、難病当事者をゲストとして招き、講話を聴いたり、感想をもとにワールドカフェを実施したりした。</p>

<p><b>授業科目名【 相談援助演習Ⅱ 】</b></p> <p>本演習は相談援助に関わる実践技術を学ぶ演習であるが、技術や技法だけでなく、その基盤にある福祉的理念を同時に伝えられるよう努めた。また教材については、学生の関心が高い虐待などの福祉課題を取り入れるようにした。そして学生がその技術・技法を体得し、実習などの実践現場で活かせるよう、繰り返しロールプレイで練習する機会を設けた。ロールプレイの際には、面接場面を録画し、学生が自身を客観的に振り返られるようにした。また学生の振り返りの時間を必ず設定し、その個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。</p>
<p><b>授業科目名【 相談援助演習Ⅲ 】</b></p> <p>本演習は相談援助実習前の準備段階にある時期に開講される演習であるため、より実践場面を意識し、臨床現場で実際に用いられる相談援助技術・技法に焦点化し、演習を行った。中でも実習で学生が行うアセスメント・プランニングの視点の習得を目標に事例演習を行った。ただそれが技術のみの習得にとどまらないように、その基盤にある福祉的理念を十分に説明する機会を設けるようにした。また学生の振り返りの時間を必ず設定し、その個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。</p>
<p><b>授業科目名【 相談援助演習Ⅳ 】</b></p> <p>本演習は相談援助実習と連動して開講される演習であるため、より実践場面を意識し、臨床現場で用いられる相談援助技術・技法に焦点化し、演習を行った。中でも実習で学生が行うアセスメント・プランニングの視点の習得を目標に事例演習を行った。実習後の指導では、実習生の自己評価結果をレーダーチャートで示せるようにし、自身の到達度を視覚的に認識できるよう工夫した。また学生の振り返りの時間を必ず設定し、その個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。</p>
<p><b>授業科目名【 相談援助演習Ⅴ 】</b></p> <p>本演習は相談援助技術を学ぶ最後の演習であるため、実習で習得した知識や技術を総合して、学生が創意工夫しながら福祉課題に対する課題解決方法を見出していけるような演習となるよう努めた。また個別支援というミクロレベルのソーシャルワークから、地域というメゾレベルのソーシャルワークへと展開できるような視点が習得できる事例を教材として用いるようにした。その中で、学生の学びとしては馴染みの薄い、地域の組織化や福祉のまちづくりの視点を習得できるような事例を取り入れた。また学生の振り返りの時間を必ず設定し、その個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。</p>
<p><b>授業科目名【 相談援助実習指導Ⅰ 】</b></p> <p>実習前指導を行う本科目では、実習への動機づけや、福祉実践に臨む視点形成に焦点を置いた講義を展開した。講義にできるだけワークを取り入れ、学生が自身で考える機会を増やすように工夫した。また車いすの使用法や、実習施設で用いられている療法や支援方法を実践する機会を講義内で設けるとともに、基礎的知識の習熟度試験を行い、基本的な技術と知識を確認する機会を設けた。見学実習では、施設からのオリエンテーションだけではなく、現場体験の時間を組み入れ、見学実習後の振り返りとして、まとめのプレゼンテーションを行う機会も設けた。個別指導の際には、それぞれの学生の特徴や傾向をできるだけ把握し、3年次の実習指導につなげられるよう心がけた。</p>
<p><b>授業科目名【 相談援助実習指導Ⅱ 】</b></p> <p>実習体験から自ら気づき、考察できる力を育成することを目標に実習指導を行った。事前学習では実習に臨む視点形成、考察するための基礎力をつけることに焦点化した。特に実習日誌作成の方法については演習を繰り返し、指導時間を集中的に設けた。また後期実習前には、個別支援計画書の作成について集中的に指導時間を設けた。事後学習では、それぞれの事例についてプレゼンテーションの機会を設け、さらにそれをグループで共有することを通して、学生同士の対話から実習体験を意味づけ、理解を深められるような機会を設けるようにした。</p> <p>また実習評価を標準化していくため、各施設と課題を共有し、共通認識を得られるよう努めた。</p>
<p><b>授業科目名【 福祉入門 】</b></p> <p>本科目は4人の教員と各領域の実践者によるオムニバス形式の講義である。その中で「社会福祉の担い手」、「地域福祉」の回を担当した。初年次生に対して、福祉への興味関心を醸成することを目的とした科目であるため、福祉が必要とされている現状や、福祉に携わることのやりがいなどを中心に、できるだけ視覚教材などを用いて、わかりやすく伝えられるようにした。</p>

<p>授業科目名【 就労支援サービス論 】</p> <p>本科目は社会福祉士国家試験の指定科目である。そのため養成テキストに沿った講義を展開し、国家試験に必要な知識を伝達するとともに、受験時にも復習できるような詳しいレジュメを作成した。そして学生が国家試験を意識できるよう、講義中に国家試験を用いた問題演習を取り入れた。また実践現場で障害者の就労支援や困窮者支援を展開している実践者の講話を取り入れたり、視覚教材を用いたりしながら、就労支援のサービス内容を具体的に理解できる機会を設けた。</p>
<p>授業科目名【 福祉経営論 】</p> <p>本科目は社会福祉士国家試験の指定科目である。そのため養成テキストに沿った講義を展開し、国家試験に必要な知識を伝達するとともに、受験時にも復習できるような詳しいレジュメを作成した。そして学生が国家試験を意識できるよう、講義中に国家試験を用いた問題演習を取り入れた。また国家試験の受験年度でもあるため、これまで学んだ基礎的な知識を復習する機会も設けた。</p> <p>本科目は福祉経営という学生には馴染みづらいマクロな視点を必要とする科目であるため、新聞記事等を用いて時事的な問題を扱ったり、学生と年齢が近い若手の実践を取り上げたりなどして、学生が身近にとらえられるような話題を提供するようにした。</p>
<p>授業科目名【 生命倫理 】</p> <p>受講生がおらず、開講されなかった。</p>
<p>授業科目名【 社会福祉特講Ⅱ 】</p> <p>本科目は5人の教員によるオムニバス形式の講義である。4年次の国家試験対策として位置づけられており、「福祉サービスの組織と経営」、「就労支援サービス論」を担当した。講義では、本試験で出題が予想される内容や学生の理解が不十分な内容を中心に、問題演習を取り入れながら実施した。</p>
<p>授業科目名【 専門研究Ⅱ 】</p> <p>学生が設定したテーマに沿って、レポート作成の方法を指導した。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本社会福祉学会		2004年～現在に至る
日本発達障害学会		2005年～現在に至る
障害学会		2009年～現在に至る

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
なし				

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者 ( ) 内は学外者	交付決定額 (単位:円)
発達障害者の「親当事者」組織と多様なアクターの協働による地域生活支援に関する研究	日本学術振興会	○通山 久仁子	1,950,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
特定非営利活動法人 nest 北九州市障害支援区分認定審査会	理事 委員	2008年6月～現在に至る 2013年4月～現在に至る

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

【学生募集委員】

2018年度より本委員を務めている。リーフレット作成では、各資格取得後の将来像と在学生の様子をわかりやすく示すことに焦点を当て構成した。オープンキャンパスでは、学科で取得できる各資格の説明を中心に、各資格に関わる模擬講義を高校生も楽しめるようなワークを含めながら構成してもらうよう調整した。

【保健福祉学研究所運営委員】

2017年度より本委員を務めている。研究所の運営の補助を行った。

【社会福祉士国家試験対策講習会】

オリエンテーション時に国家試験に向かう心構えについて丁寧に説明し、1年間モチベーションを継続して保っていくことができるよう動機づけを行った。今年度は週2コマ国試対策を行い、前期に穴埋め試験、過去問演習、後期に一問一答試験（基礎編、応用編）、過去問3年分の問題演習を継続して行い、互いに競争心を持って学習に臨めるような環境をつくるようにした。また個別面談の回数を増やし、特にフォローが必要な学生について、丁寧に個別指導を行えるようにした。

【高大連携・出前講義】

高校生が福祉の視点に触れ、福祉の仕事の楽しさを感じられることを目標に、福祉の仕事が求められている状況、社会福祉士がどのような仕事かについてわかりやすく伝えられるよう工夫した。また演習などを取り入れることで、大学での授業を体感できるようにした。